



公益財団法人 **世界こども財団**

FGC-Foundation for Global Children



【公益財団法人 世界こども財団事務局】

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2

Tel. 0463-74-5359 Fax. 0463-74-5374

E-mail: fgc@fgc.or.jp

<http://www.fgc.or.jp/>



世界こども財団の3つのビジョン

1. 充実した教育と医療の環境整備。国を担う若者の育成

世界のこども達のために充実した教育(スポーツ・芸術などを含む)と医療の環境を整備するとともに、人材、特にその国の将来を担える若者の育成と就労の場を設ける仕組みを構築していきます。また、可能であればそれぞれの国の教育及び医療のインフラ整備についても道筋をつけたいと考えます。

2. シンク(Think)タンクではなく、ドウ(Do)タンク

本財団の目的をより確かに、より効果的に達成するために、その機能は「シンクタンク(Think tank)」というより、むしろ「ドウタンク(Do tank)」、すなわち《実践型の組織》と自覚し、運営を展開していきます。

3. ゆっくり、されど着実に。先々の未来まで続く活動を

本財団の設立には「この後続く人々に、こども達の未来づくりを託す」という狙いも含まれており、その活動は長期にわたることが予想されます。したがって、財団の活動を一過性のものとせず、長期的な視点を持ち、一步一步着実に実現し、継続していく組織でありたいと願っています。



世界こども財団(FGC)の活動



ブータン

➤ 2012 年～ RTC との短期交換留学 プロジェクト

星槎大学とロイヤル・ティンプー・カレッジ(RTC)との間で交わされた合意に基づき、2012年から両大学の間で10日間の短期交換留学プログラムを実施。FGC もこのプログラムに協力しています。



東日本大震災の被災地を訪問、自然にお祈りが始まりました



星槎湘南大磯キャンパスを訪問

➤ 2012 年 ブータンの寺院焼失、再建支援の緊急募金活動を実施

2012年6月24日、ブータンの歴史的建造物「ワンデュ・ポタン・ゾン」が火災で焼失しました。世界こども財団は7月と10月にそれぞれ10,000米ドル、合計20,000米ドルをブータン政府に寄付しました。

➤ 2012 年 加藤登紀子さんコンサート in ブータン

2012年10月20日には、世界こども財団の評議員でもある歌手の加藤登紀子さんが、日本人として初めてブータンでコンサートを開きました。野外で行われたコンサートでは、ブータンのこどもたちとの共演、多くの人がステージを楽しみました。音楽を通じて、ブータンと日本の交流を深めることができました。



➤ 2012 年～2014 年 高校サッカー留学生を受け入れ

2010年、ブータン王国のアシ・ケサン王女との間で『アシ・ケサンー宮澤星槎奨学金』制度が設立。2012年、FGC を通じて、ブータンから2名の高校生の留学受け入れが実現しました。2 名は星槎学園高等部奥寺スポーツアカデミー(現・星槎国際高校湘南サッカー専攻)に在籍し、約2年間の留学を終え、2014年3月に卒業しました。



キンザンさん(左)とペマさん(右)



帰国後、キンザンさんは地元ティンプーFC 所属、ブータン代表のゴールキーパーとして活躍しました

➤ **2016 年～ 東京オリンピック・パラリンピック大会参加、およびスポーツを通じた交流・青少年の育成支援**

2016年5月にブータン・オリンピック委員会(BOC)会長のジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下ほか BOC 代表団を神奈川県への視察に招待。BOC 一行は星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、その他施設を高く評価され、さらに2016年9月にはブータンで” Bhutan-Japan Sports Collaboration 2016-2020 “の MoU(覚書)を締結しました。この MoU は、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会、そしてさらに未来へと続くブータンへのスポーツを通じた支援、そしてより深い交流を目的としたものです。



ジゲル王弟殿下と、MoU 締結式にて

➤ **2017 年 ブータン王国との 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会事前キャンプ協定を締結**

2017 年 4 月、ブータン・オリンピック委員会(BOC)ジゲル・ウゲン・ワンチュク王弟殿下ほか BOC 代表団が再来日。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会における神奈川県での事前キャンプ招致協定がジゲル王弟殿下 BOC 会長、宮澤保夫前理事長、神奈川県知事、小田原市長、箱根市長、大磯町長との間で締結されました。



➤ **2017 年 スポーツ奨学生として陸上競技留学生 1 名、アーチェリー留学生 2 名を受け入れ**

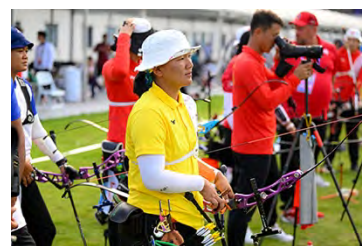
2018年1月に3名の留学生が来日し同年 4 月、星槎国際高校湘南に入学しました。陸上競技留学生のツェリン・ペンジョさんは2019年に同校を卒業し星槎大学へと進学した後、2023 年 9 月に同大学を卒業し、現在は自国で競技生活を続けながらブータンオリンピック委員会(BOC)の職員として、スポーツインフラとサポートシステムの強化を担当しています。アーチェリー留学生のソナム・チョデンさんとニドゥ・ドルジさんは 2021 年に星槎国際高校湘南を卒業しました。ソナムさんは自国でアーチェリー代表選手としてナショナルチームに所属し、アジア競技大会など、国際大会にも出場しました。



高校入学時のソナムさん、ペンジョさん、ニドゥさん



アーチェリーの練習に励むソナムさんとニドゥさん



第 19 回アジア競技大会に出場した星槎の卒業生ソナムさん



2023 年に星槎大学を卒業したデジェンさんとペンジョさん



第 19 回アジア競技大会に出場した星槎の卒業生ペンジョさん



BOC の職員として働くペンジョさん

➤ 2017 年～ ブータンへのスポーツを通じた様々な支援

東京オリンピック・パラリンピック大会へ向け、またさらに未来を見据え、世界こども財団と星槎グループでは、スポーツを通じたブータン王国への支援、交流のプロジェクトを実施しました。

- **コーチ派遣**:日本人コーチを現地に派遣、ブータン陸上連盟所属の中距離、長距離選手への強化トレーニング、指導者向けコーチング・クリニックを開催しました。
- **大阪マラソン**:2017年11月26日に開催された、第7回大阪マラソンに世界こども財団と星槎グループのサポートのもとマラソン選手2名が出場し、サンゲイ・ワンチュック選手がブータン国内記録を4分以上更新し新記録を樹立しました。
- **ツアー・オブ・ドラゴン**:世界一過酷なマウンテンバイクレース「ツアー・オブ・ドラゴン: Tour of Dragon (TOD)」の第10回目大会で、世界こども財団と星槎グループが、ゴールドスポンサーを務めました。
- **ブータン国際マラソン**:毎年開催されるブータン国際マラソン(BIM)で、第3回と第4回の大会には星槎道都大学陸上競技部選手2名を派遣、2年連続星槎道都大学陸上部選手が優勝しました。また、第6回大会では、日本モルテン製デジタルタイマーを寄贈しました。
- **ISPS HANDA CUP**:毎年9月に愛知県で開催されるアーチェリー国際大会「ISPS HANDA CUP」第1回、第2回大会にブータン代表選手を招聘。第3回大会には星槎国際湘南アーチェリー専攻のブータン留学生2名も出場しました。
- **五輪出場**:2019年11月、支援を続けているオリンピック・アーチェリー・アスリートのカルマ選手がブータン史上初めて競技成績によって五輪出場権を獲得しました。
- **アーチェリー・オンライン大会**:2020年8月、ウィズコロナの新しいアーチェリー大会として「第1回ブータン(BAF) & 日本(SEISA)リモートアーチェリー交流大会」を開催。11月にはブータン・アーチェリー連盟と FGC および星槎グループとの共同で「第2回ブータン & 日本リモートアーチェリー交流大会」を開催しました。
- **世界水泳選手権**:2023年8月、福岡で開催された大会に出場したブータン代表選手2名をサポート。また同行し来日した BOC 事務局長ソナム氏とも今後に向けた協議を実施しました。



大阪マラソン初出場



TOD 選手表彰式にて



五輪出場権を獲得した
カルマ選手

➤ 2018 年～ ブータンの未来を担う留学生を支援

2022年3月、星槎グループと FGC の支援によって 2018 年にブータンから来日したロイヤル・ティンプー・カレッジ(RTC)卒業生のパマ・セルデンさんが、東京大学公共政策大学院(GraSPP)修士課程を修了し、日本企業に就職しました。



➤ 2017 年～ ブータンのパラスポーツ支援

2017年9月、アブダビで第18回国際パラリンピック委員会(IPC)総会が開催され、FGC および星槎グループでかねてからサポートしていたブータンパラリンピック委員会(BPC)の正式認可が承認されました。

➤ 2019 年 パラリンピック・ディにて車いすアクセス車両を寄贈

宮澤前理事長が BOC 会長名誉顧問に就任、伝統の剣「パタン」の授与

2019年4月下旬、首都ティンプーで開催されたブータン史上初となるパラリンピック・ディで、宮澤保夫前理事長から BPC に車いすアクセス車両2台が寄贈されました。また、同日、宮澤保夫前理事長は、ジゲル・ウゲン・ワンチュク国王弟殿下・第5代ブータン国王名代の意向により BOC 会長付名誉顧問(Honorary Advisor to the President

of the Bhutan Olympic Committee)に任命され、BOC のソナム・カルマ・ツェリン事務局長から任命書が渡されました。

さらに2019年10月、ジゲル・ウゲン・ワンチュク国王弟殿下は、宮澤保夫前理事長に、これまでの長きに渡る多大なる社会貢献、これからの2人の友情の証、そして、これからの両国の更なる発展を願い、銀の鞘におさまったブータン王国伝統の剣(パタン)が贈られました。



BOC ソナム事務局長より
任命書を授与



パラリンピック・デイ



福祉車両 2 台を寄贈



ブータン王国伝統の剣
(パタン)

➤ 2019 年 スポーツ奨学生として柔道選手 2 名を受け入れ

2019年3月末、ブータン柔道協会(BJA)から 2 名の柔道留学生キンレイ・ツェリンさん、タンディン・ワンチュクさんが来日。同年 4 月に星槎道都大学へ入学し、スポーツマネージメントを専攻、柔道部に所属しました。在学中は、ブータン代表として「世界陸上選手権大会」、「第13回2019年南アジア競技大会」などに出場し経験を積みました。そして2023 年 3 月同大学を卒業。卒業式には 2 名のご家族もブータンから招待することができました。

現在は自国で後進指導をしながら柔道家として鍛錬を重ね、多数の国際大会に出場しています。タンディンさん、キンレイさんの2名は 2024 年 11 月 28 日、ブータン・オリンピック委員会(BOC)が国内トップアスリートを支援する「ブータン・エリート・アスリート・サポート・トレーニング(BEAST)」プログラムのアスリートにも選抜されました。



2023 年 3 月に星槎道都大学を
卒業したキンレイさんとタンディンさん



第 19 回アジア競技大会に出場した
卒業生タンディンさん



BEAST プログラムのアスリートとして
選抜された二人

➤ 2024 年 The Royal Academy 陸上トレーニング国際交流プログラム実施を支援

2024 年11月 5 日から 11 月 11 日にかけて、The Royal Academy から高校生 4 名と体育教員 1 名が来日し、陸上トレーニングを軸とした国際交流プログラムを実施しました。これは一般社団法人アスリートソサエティからの要請を受け、学校法人国際学園および世界こども財団の協力で実現しました。来日した生徒たちは、オリンピックや星槎グループとブータン王国との繋がりについて学び、また星槎大学陸上部や星槎国際横浜鴨居陸上との合同トレーニングを通じて、技術向上だけでなく、日本の高校生や大学生との友情も育みました。



星槎の生徒たちと交流



星槎とブータンの繋がりを学ぶ



陸上トレーニングの様子



オリンピック・ソリダリティ・プログラム

2018年11月25日、エリトリア、そしてブータンから星槎国際高校湘南への留学生5名が、味の素ナショナルトレーニングセンター(東京都)にて、国際オリンピック委員会(IOC)のトーマス・バッハ会長に面会、座談会に出席し、日本での活動報告を行いました。

星槎が継続的に実施しているスポーツ奨学生プログラムはIOCの公式プログラム(オリンピック・ソリダリティ・プログラム)として発展し、面会は来日中のバッハ会長とプログラム対象選手たちの交流の場として催されました。



IOC バッハ会長とプログラムのアスリート



エリトリア

➤ 2014年～ 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会参加に向けた支援

2014年9月、エリトリア・オリンピック委員会(ENOC)との間で、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会参加に向けた支援の覚書を交わしました。

2015年8月に行われた世界陸上北京大会では、宮澤保夫前理事長がエリトリア選手団の一員として参加。男子マラソンでは、エリトリアのギルマイ・ゲブレスラシエ選手が、世界大会で自国初の金メダルを獲得して話題になりました。

さらに同年9月2日には、2020東京五輪の際のエリトリア選手団の事前キャンプを神奈川県西湘地区に招致する協定を締結。ENOC メハリ委員長、神奈川県知事、小田原市長、箱根町長、大磯町長、そして、エリトリアの日本側代理人として宮澤前理事長が協定書に名を連ねました。



事前キャンプ招致協定を締結

➤ 2017年 スポーツ奨学生(陸上競技)として高校生2名を受け入れ

エリトリアから初の留学生デジェン・テスファレムさん、アヌール・モハメドさんは、来日後日本語を集中的に勉強し、同年4月、星槎国際高校湘南陸上競技専攻に入学し陸上選手として活躍後、2019年に同校を卒業しました。デジェンさんは星槎大学へと進学し以下の成績を残しました。

- 2020年2月:東アフリカハーフマラソン選手権に出場、出場62選手中12位
- 2020年7月18日:「ホクレンディスタンスチャレンジ2020第4戦千歳大会」出場。5000mの結果から「関東学生陸上競技連盟強化派遣対象者」に選出
- 2020年9月:「第89回日本学生陸上競技対校選手権大会」(全日本インカレ)に10000mで出場、29分54秒10で12着

デジェンさんは、2023年9月に星槎大学を卒業、日本の企業へ就職し、陸上競技を続けながら数々の国際レースに挑戦しています。2024年3月3日に開催された鹿児島マラソンでは初マラソン優勝を飾り、大きな話題となりました。



高校入学時のアヌールさん(左)と
デジェンさん(右)



卒業式にはエスティファノス
駐日エリトリア国大使も出席



鹿児島マラソン 2024 で初マラソン優勝
を果たしたデジェンさん

➤ 2017年 独立記念週間のエリトリアを訪問

2017年5月、エリトリア国のゼメデ・テクレ文化・スポーツ庁長官からの正式招待を受け、宮澤保夫前理事長がエリトリア国の首都アスマラを訪問しました。期間中の「インディペンデンス・ウィーク」(独立記念週間)には、同行した星槎グループの創作和太鼓集団 打鼓音(だこおん)のメンバーが公演を行い、各公演とも大変な盛況となりました。

滞在中は外務大臣、農業大臣をはじめとする重要閣僚への表敬訪問、与党政党幹部との会談、イサイアス大統領との会談が行われ、多様な事項に関し率直な意見交換がなされました。



和太鼓の公演を実施

➤ 2017年 スポーツ奨学生(陸上競技)として大学生1名を受け入れ

高校生2名に続き来日したケセテ・ハブテシオンさんは星槎道都大学に入学、陸上競技部に所属し、陸上選手として活躍しました。大学在学中は、2021年8月に開催された北海道インカレで5000mに出場し、14分55秒46のタイムで優勝、大学生生活最後のレースで優秀の美を飾りました。

2021年9月、星槎道都大学を卒業後、現在社会人として、世界こども財団で共に働き、星槎グループの各校舎でアフリカや母国エリトリア文化の紹介や走り方教室を担当しています。また、星槎国際高校湘南では陸上部の指導も行っています。更なる高みを目指しながら自身が学んできたことを活かし、エリトリアと日本の架け橋としてその活躍を広げています。



北海道インカレで優勝



星槎道都大学を卒業



エスティファノス大使と SAAB2024 にて

➤ 2019年3月 スポーツ奨学生(陸上競技)として高校生3名を受け入れ

エリトリアから新たに留学生ダイモンさん、メルハウィさん、ナトナエルさんが来日し、星槎国際高等学校湘南陸上競技専攻に入学しました。留学生の選定は、エリトリアの文化スポーツ庁やエリトリア陸上競技連盟との協働のもと行われました。データや記録だけではなく、専門家・プロの目で確かめるため、陸上競技専攻の監督が現地を訪問、実際に選手の走りを見てセレクションを行ないました。また、世界こども財団の職員も現地にて彼らに事前インタビューや学

カチェックを行い、最終決定となりました。来日後、星槎国際高校湘南 陸上競技専攻に入学し、陸上選手として勉強、スポーツに励みました。卒業後、メルハウィさんは帰国し陸上競技を続け、ダイモンさんとナトナエルさんは星槎道都大学へ進学し陸上競技部に所属しています。



来日時、宮澤保夫前理事長との面会



先輩のケセテさんとトレーニング



高校の卒業証書を手

➤ 2019 年 エリトリアを2回にわたり訪問 / unicef との協働プロジェクト

2019年は、5月と9月の2回に渡ってエリトリア訪問を実施しました。現地では、文化・スポーツ庁のゼメデ・テクレ長官をはじめ、オリンピック委員会や各競技連盟の関係者と2020年東京オリンピック・パラリンピック大会やその先へ向けての支援について協議を行いました。文化・スポーツ庁へはエリトリア国におけるスポーツ振興、そしてパラスポーツ等の支援のための寄付も行いました。

スポーツ以外の分野でも、ユニセフエリトリアとの協働プロジェクト(幼児教育と水、衛生設備等のコミュニティ開発を組み合わせたプロジェクト)をスタートしました。



ゼメデ・テクレ長官と

➤ 2020 年 エリトリア・パラアスリートへの支援

エリトリア初のパラリンピック出場を目指す、車いすマラソンランナーのジブハトゥ・ケセテ選手を支援しました。世界こども財団は、シブハトゥ選手にとっての大きな課題であった競技用車いす一式を3月のロサンゼルスマラソン大会出場に併せて寄贈しました。今大会では入賞することはできませんでしたが、2021年にはエリトリア・パラリンピック委員会が正式に承認され、シブハトゥ選手は2024年パリ大会にてエリトリア初のパラリンピック大会出場を果たしました。



新しい競技用車いすで大会に臨む
シブハトゥ選手

➤ 2022年 スポーツ奨学生として陸上競技留学生4名とバスケットボール留学生2名の留学生受け入れ

新型コロナウイルスの影響により、約2年間来日が延期されていた留学生6名が5月に来日しました。日本での滞在は1年間のみとなりましたが、待機期間中もレポート等に取り組み単位を取得、2023年3月に無事、高校を卒業しました。武蔵野学院大学陸上部へ特待生として進学したビニウム・テスファイ・ゼラツィオンさんは、2024年10月19日に開催された箱根駅伝予選回にチームの一員として出場し、全体13位という好成績を残し、武蔵野学院大学の過去最高順位に貢献しました。



箱根駅伝予選会で疾走するビニウムさん

➤ 2023 年～ エリトリアの食文化紹介活動を実施

世界子ども財団ではこれまでも、星槎国際八王子学習センターの「キッチンカーゼミ」と協働でブータン料理を提供する取り組みなどを行ってきました。また、昨年 2022 年には、箱根町の幼稚園のこどもたちや、星槎国際高校浜松学習センターの文化祭や授業等でも、エリトリア出身の FGC 職員ケセさんのメニューで、エリトリア風カレーの紹介を行ってきました。2023 年度からは、さらに地元のイベントや星槎の文化祭・イベントなどで提供しています。毎回多くの方々に足を運んでいただき、エリトリア風カレーを味わっていただきながら、FGC のスタッフがエリトリアと世界子ども財団の活動を紹介し、アフリカ、エリトリアについて理解を深めていただき有意義な文化交流の活動のひとつとなっています。



マリ共和国

➤ 2023 年 スポーツ奨学生としてバスケットボール留学生 1 名受け入れ

5 月 24 日に来日した留学生のアルマム・サリフ・ドゥンビアさんは、星槎国際高校湘南男子バスケットボール専攻に所属し、寮生活を送っています。2024 年、2 年生になったアルマムさんは、変わらず勉強にスポーツに一生懸命取り組み、初めて受験した日本語能力試験 N5 にも見事合格しました。長期休暇の間はチームメートのご家庭にホームステイし日本での生活にもすっかり慣れました。バスケットボールでは、恵まれた体格を活かして活躍を続けています。4 月に行われた神奈川県大会では初の県ベスト4、そして男子バスケットボール専攻としてはじめての関東大会に出場しました。世界子ども財団は、引き続き留学生が日本で充実した時間を過ごせるよう、全力でサポートしていきます。



クラスメイトと一緒に



バスケット部での練習風景



駐日マリ共和国大使を表敬訪問



体育祭で綱引きに初挑戦



日本語検定 N4 合格!



神奈川県大会に出場



ウガンダ共和国

➤ 2023 年 KOMOREBI 小学校のインフラ整備支援を開始

ウガンダの北部にあるオモロには、日本(NPO 法人五条クラブ) とウガンダの人々が協力して設立した KOMOREBI 小学校があります。オモロは雨季と乾季の気候の変化が激しく、雨季には川が増設して道が冠水するためこどもたちは道を通れず、学校に行けなくなってしまう。世界こども財団は、KOMOREBI 小学校のインフラ整備を支援するため、「ウガンダに橋をかけよう！」プロジェクトをスタートしました。このプロジェクトではこどもたちが安全に通学するための橋の建設や教室の増設、さらに交流事業など長期的に活動を行っていきます。

11 月にクラウドファンディングをスタート、ウガンダ大使館訪問を訪問しプロジェクトの説明、協議を行いました。12 月は FGC 職員が現地へ渡航し、現地自治体と五条クラブ、FGC の 3 者で連結協定を締結しました。

みなさまのご支援のおかげで、クラウドファンディングは期間内に目標寄付額の 500 万円を突破することができました。



クラスの様子



KOMOREBI 小学校校舎



雨季に水没する通学路



オモロ県と連携協定を締結



こどもたちにレインコートと
ソックスのプレゼント



通学路の様子(乾季)

➤ 2024 年「SEISA Africa Asia Bridge」の完成

2024 年 4 月、さまざまな調整を経て、橋の建設が始まりました。すでに雨季に入っていた現地での工事は困難なものとなりましたが、現地の方々の懸命な作業で、ついに 2024 年 7 月橋が完成しました。この橋は、アフリカとアジアの架け橋となることを願って「SEISA Africa Asia Bridge」と名付けられました。



橋建設の様子



SEISA Africa Asia Bridge



新しい橋を渡るこども達



ミャンマー

➤ 2012 年 保健省のスクール・ヘルス・プログラム支援

世界こども財団の支援により、ミャンマー保健省(現保健スポーツ省)は学校での健康向上プログラム(スクール・ヘルス・プログラム)を始めました。保健省は、2014年3月までに10校近くの学校に石けんや歯磨きタオルを提供し、手洗いや歯磨きの実践指導、衛生管理教育を行い、手洗い場の設置等も実施しました。

➤ 2012 年 白内障手術を支援

ミャンマー政府の要請を受け、白内障治療や失明予防の支援活動に取り組みました。

2013年8月には、ヤンゴン国立眼科病院で2日間にわたり、日本人医師による白内障の手術を実施されました。この手術に必要な手術機器一式は、世界こども財団がミャンマーに輸送し、保健省に寄付したものです。

この白内障手術プロジェクトは現地のテレビでも報道されました。

➤ 2013 年救急車2台と通信機器を寄付

2013年11月、保健省に救急車2台を、通信・情報技術省(当時)に通信機器を寄付しました。ミャンマー側からは政府関係者や政府与党 USDP 党関係者、日本側からは黒岩神奈川県知事や在ミャンマー日本大使館公使、日本ミャンマー協会専務理事など総勢約50名にご参加いただき、ヤンゴン市内のホテルで寄贈式典を開催しました。

ミャンマーの各省からは、世界こども財団に感謝状が贈られ、代表して保健省のテイン・テイン・タイ副大臣(当時)から「宮澤氏の情熱が印象的で、深く感謝いたします」とのお言葉をいただきました。



➤ 2014 年 1 月 ミャンマーの工業高校生を招待、短期留学プログラムを実施

世界こども財団、及び学校法人 国際学園とミャンマーの科学技術省(現教育省)との間で交わされた、人材育成のための共同事業に関する合意に基づいて、短期留学プログラムを実施しました。

ミャンマー国立工業高校から選抜された5人の高校生と引率教員1人が 2014 年 1 月に来日し12日間滞在。星槎の寮を拠点にして神奈川県との全面的な協力を得て、県立平塚工科高等学校で3日間授業に参加、東京、神奈川の9社の企業や工場を見学したりしました。



実習でラーメンタイマーを制作

➤ 2014 年 情報通信技術省の研修センターに PC 寄贈

ヤンゴン市内にある研修センターの U Kyaw Soe 校長にパソコン6台とプリンター6台(5000ドル相当)を寄贈しました。

➤ 2014 年～ 孤児院への支援

2014年3月、ネピドーにある孤児院「Sama Taun The Garden for Youth Development」を視察訪問しました。2016年7月には、ミャンマーから元保健省副大臣のテイン・テイン・タイさん御一行が来日され、約1週間日本に滞在されました。テイン・テインさんは現在、孤児院を支援する活動をされています。同センターの副校長先生と共に、星槎グループの組織や日本の児童養護施設や乳児院の運営について学び、ミャンマーの施設運営に活かすために来日されました。

➤ **2014 年 大学生のインターンシップ留学支援**

当時の科学技術大臣との会談により、2014 年12月の2週間にわたり、ミャンマーの工科大学から選抜された大学生3名と講師2名を招き、日本企業での短期インターンシップ・プログラムを実施しました。留学生の希望を受けて、日本の製造業の様々な工程を体験、星槎の高校生や大学生と交流や文化体験など盛りだくさんのプログラムを構成しました。星槎高尾キャンパスに拠点を置き、東京、神奈川、山梨の企業や工場、そして博物館など10ヶ所を訪問しました。

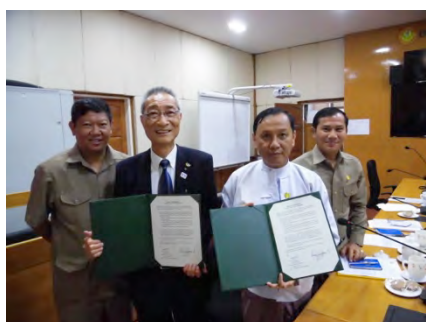


東京電力火力発電所を見学

➤ **2016 年～ 東京オリンピック・パラリンピック大会参加、およびスポーツを通じた交流・青少年の育成支援**

2016年11月、宮澤保夫前理事長がミャンマーを訪問し、同国の保健スポーツ省大臣(兼 ミャンマーオリンピック委員会会長)と会談を持ちました。

さらに2017年3月、4月と続けてミャンマーを訪問、ミャンマーオリンピック委員会(MOC)と『ミャンマー・日本スポーツコラボレーション』の協定書を交わしました。協定に基づき、ミャンマーの陸上競技ナショナルチームへコーチを派遣、2017年4月より現地での活動を開始、8月にマレーシアで開催された SEA Games(東南アジア競技大会)へ向けた強化指導を実施しました。また、2017年7月には同大会へ向けたミャンマーの柔道チームの日本でのトレーニングキャンプの要望に対して、星槎道都大学での1ヶ月にわたる合同合宿受け入れを行いました。



ミャンマーオリンピック委員会と協定締結



日本で合宿を行った柔道代表チーム



陸上競技代表コーチを派遣

➤ **2018 年 ミャンマーオリンピック委員会との2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会事前キャンプ協定を締結**

2018年4月24日、世界こども財団と星槎グループは、ミャンマー連邦共和国オリンピック委員会と東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての事前キャンプに関する協定を、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町と共に締結しました。それに合わせ、4月22日から27日にかけて、MOC 事務局長をはじめミャンマーから関係者4名を世界こども財団と星槎グループで日本に招き、視察と協議を実施しました。星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、小田原市の城山陸上競技場といった神奈川県内の各施設を訪問しました。



➤ **2019 年 スポーツ奨学生 第四期生として空手競技留学生 3 名を長期受け入れ**

ミャンマーより 3 名の留学生を受け入れ、星槎国際高校湘南にて毎日元気いっぱい空手の稽古と学業に取り組みました。また、星槎国際高校湘南の空手道場だけでなく、神奈川県立平塚工科高等学校にもご協力を頂き同世代の日本人選手との合同練習にも励みました。在学中に、関東高校体育連盟主催の昇段審査にて初段に合格。2022 年3月に同校を卒業しました。



来日時の空港にて
(左からスーさん、カウンさん、ヤミンさん)



空手道新人大会(個人組手)に出場するカウンさん



バングラデシュ

➤ 2010 年～ アグラサーラ孤児院への支援

チッタゴン近郊の東グズラ村にある「アグラサーラ孤児院」への支援を行っています。孤児院の自立経営に向けた支援のほか、インターネット等を利用した現地のこどもたちと日本のこどもたちの交流プログラム等を継続的に実施しています。



カンボジア

➤ 2012 年 プノンペンの職業訓練センターへの支援

カンボジアには地雷の影響をいまだに受けているこどもたち、障がいを抱えて生きていくために職業訓練が必要な人たちがたくさんいます。世界こども財団では、首都プノンペンにある障がい者や孤児たちの自立を支援するための職業訓練センター(Phnom Penh Thmay Vocational Training Center)に、設備内容の充実や環境改善のための費用を寄付しました。



ネパール

➤ 2015 年 大震災への復興支援

2015年4月25日に発生した大震災で甚大な被害を受けたネパールを支援するため、緊急の募金活動を行いました。現地の NGO や学生を通じて、6月には被害の激しい山岳地帯への緊急物資の支援、また12月には約500人のこどもたちに新しい制服を届けました。



南アフリカ

➤ 2020 年 南アフリカの食糧支援に協力しました

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界中で社会情勢が悪化しましたが、南アフリカ共和国でも事態は深刻で、ロックダウンの中で収入が断たれ、生活に困窮する人も多くいました。そんな中、南アフリカのジョージという町で地域の人々に向けて毎日、食糧の配給を続けている George-Suid 教会の活動を支援するため、世界こども財団から寄付金を贈呈しました。この寄付は、食糧配給に使用するオーブンやフードプロセッサーなどの調理器具を購入することで、このプログラムを継続していくために使用されました。





マラウイ

➤ 2021年 アフリカ マラウイの病院の活動を支援

2 回に渡り、アフリカのマラウイ北部にある病院「エンバングウェニ・ミッシェン・ホスピタル」の活動支援のため寄付を行いました。当時、病床は常に定員オーバーの中、新型コロナウイルスの対応にも迫られ、スタッフは食事を取らずに長時間勤務を強いられていました。そんな過酷な状況で働くスタッフのために、FGC からの寄付を用いて 2021 年 4 月より「ホット・ミール・プロジェクト」が始まりました。このプロジェクトは、夜勤で働く医師、看護師、スタッフ全員に、温かい食事を提供するというものです。小さな支援ではありますが、人々のために懸命に働くスタッフの皆さんから大変喜ばれ、詳細なレポートと感謝状、そしてスタッフの笑顔の写真が送られました。



ブルキナファソ

➤ 2021年 アフリカ ブルキナファソのこどもたちへの支援



こどもたちへ自転車をプレゼントしました。

ドイツのアマチュア無線家である Herald Becker さんは、アフリカのブルキナファソを毎年訪れ、現地からアマチュア無線の交信を行うだけでなく、こどもたちの学費の支援などの慈善活動にも長年力を入れています。2021年6月に Herald さんがブルキナファソを訪問した際、FGC も彼の活動に賛同し寄付を贈りました。この寄付によって Herald さんから

12月に現地を再訪した Herald さんは、サンタクロースとなり「ロバに乗ったサンタ」として FGC と共同で用意した贈り物を届けました。こどもたちからはお礼に星槎と FGC ロゴの入った絵が贈られました。



サントメプリンシペ

➤ 2021年 アフリカ サントメプリンシペの学校支援

2021 年 10 月、Petr Spacil さんをはじめとするチェコのアマチュア無線家チームが、アフリカのサントメプリンシペを訪問しました。Petr さんたちもアマチュア無線の活動だけでなく「何か現地の人々の役に立つことを」という希望をもち、世界こども財団と協議の上、日本から寄付を送り、現地の2つの小学校に必要な物資を寄贈しました。扇風機やモニターといった学校の備品だけでなく、こどもたちのためのボールなども贈り、こどもたちもとても喜んでくれました。



コートジボワール

➤ 2022 年 アフリカ コートジボワールの学校への贈り物



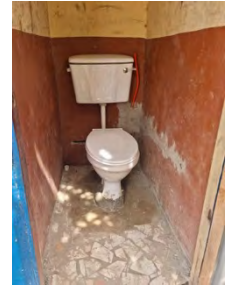
前述のサントメプリンシペでの支援に協力してくれた Petr さんほかチェコのアマチュア無線家チームが 2022 年2月にコートジボワール共和国を訪れ、前回同様、現地の学校関係者と協議の上、必要な物を調査、FGC からの寄附金で物資を購入し、こどもたちに教材や学校備品等を届けることができました。



ガンビア

➤ 2021年 アフリカ ガンビアの小学校にトイレ4台を寄贈

2021年11月、Luc Thibaudat さんほかフランスのアマチュア無線家チームが、西アフリカのガンビア共和国を訪問。宮澤保夫前理事長とのリモートでの協議を経て、衛生環境に申告な課題を抱えていた現地の小学校に、トイレ4台を寄贈しました。



トルコ

➤ 2023年 トルコ・シリア大震災復興へ向けての支援

2023年2月6日にトルコ・シリア地震が発生してから、世界子ども財団では支援のための寄付金募集を行いました。6月30日に東京の駐日トルコ共和国大使館を訪問し、集まった寄付金の目録をお渡ししました。大使館では一等書記官のエスラ・オズベクさんが迎えてくださり、FGC 職員のケセテさんより贈呈しました。

寄付金は、トルコ本国の災害緊急事態対策庁に直接届き、現地の人たちのために使われます。



JICA日系社会研修員受入事業

➤ 2023年～「共感理解教育と文化活動」プログラムに研修員1名を受け入れ

ブラジルから日系2世・3世の研修員を受け入れ、世界子ども財団が提案した「共感理解教育と文化活動」プログラムを実施しました。これは JICA が地方自治体、大学、公益法人、NGO、企業などの団体から広く提案を受け実施を委託して行う、国民参加型の「日系社会研修員受入事業」です。これまで2回、2023年と2024年の1月から2月にかけて実施しました。5週間の研修は、導入、見学、体験、実習、振り返り、発表という流れで、だんだんと深く日本の教育と星槎グループの教育現場、日本文化を肌で体感していくものでした。ブラジルとは違う星槎の教育現場は、研修生にとって毎日が初めてのことで、とても新鮮で、研修を通して星槎の共感理解教育についても理解していただくことができました。



和太鼓体験



スイーツゼミ



活動とブラジルの文化について発表



瀬谷保育園を訪問



星槎国際高等学校を訪問



JICAでの修了式にて



多文化理解授業を実施

➤ 2023 年～「グローバルプロジェクトゼミ」を開始

高校生たちが、世界の「今」を学び、語学力や多文化を理解する力を育てることを目的とした「グローバルプロジェクトゼミ」が、2023 年度から星槎国際高校の立川、横浜鴨居、八王子の各学習センターで実施されています。世界子ども財団の職員ケセテさんが、星槎と深い繋がりのある母国エリトリア国についての授業を担当しています。授業では、講義だけでなく、食文化を学ぶ調理実習も行っています。この授業を通して、生徒たちがエリトリアやアフリカの歴史や文化について理解を深め、次の世代がより良い関係を築ききっかけづくりをしています。

➤ 2024 年 港区立白金小学校でエリトリア大使館による国際理解教育の出張授業

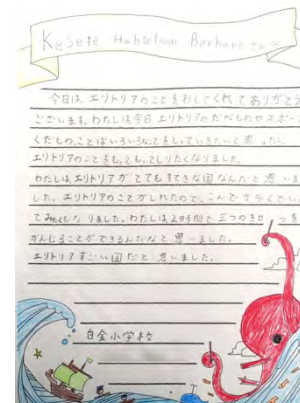
2024 年 5 月 28 日、東京の駐日エリトリア国大使館のプログラムの一環として、世界子ども財団職員でエリトリア出身のケセテさんが、港区立白金小学校でエリトリアの歴史、文化、言語、食文化などを幅広く紹介しました。授業は3年生全 4 クラスの 117 名が参加しました。生徒たちは皆真剣に授業を聞き、興味深い表情を見せていました。後日、生徒のみなさんからたくさんの感想のお手紙が届きました。



「エリトリア風カレー」の調理実習



港区立白金小学校での
出張授業の様子



生徒から感想のお手紙



東日本大震災復興支援（福島県）



FGC は、2011年3月11日に発生した東日本大震災直後の3月17日から、星槎グループ・星槎国際高等学校の仙台学習センターと郡山学習センターを拠点にして、被災地へ命をつなぐための生活物資搬入などの支援活動を開始しました。4月12日には、福島第一原子力発電所事故の風評被害に苦しむ福島県相双地区へ宮澤保夫前理事長を先頭に現地入りし教育と医療の再生に向けた支援活動を継続的に実施しました。



FGC の「医療支援班」は、東京大学医科学研究所の^{かみ}上昌広特任教授(現:特定非営利活動法人医療ガバナンス研究所理事長)の研究班が中心となり、各地の医療機関と FGC が連携し、震災後の避難所や医療機関の現状把握と問題点の洗い出しを行う中で、主に放射線説明会や健康診断などを実施しました。「教育環境支援班」は、教員やスクールカウンセラーを派遣し、被災地の小中学生や保護者、教員などの精神的ケア、カウンセリングを現在まで継続して行っています。

医療支援班

2011年の相馬市職員の健康診断や全村避難を控えた飯舘村、線量が高かった相馬市玉野地区を手始めに、相馬市、川内村などで住民の健診を2016年まで行いました。また、相双地区(相馬市、南相馬市)を中心に被災住民への放射能説明会を2011年から継続して行い、南相馬市立病院ではホールボディカウンターを使用して、住民の内部被爆検査を継続的に実施しました。

《医療支援班・教育環境支援班が実施した放射線説明会／健康診断》【2011.5～2017.3 累計】

放射線説明会	一般市民	教職員対象 説明会	中学生	医療関係	合 計	健康診断 (仮設住宅等住民等)
相馬市	2,494	240	約 200		約 2,934	3,841
南相馬市	186	113		60	359	
川内村	78				78	135
郡山市	25				25	
飯舘村						424
総合計	2,783	353	約 200	60	約 3,396	4,400

教育環境支援班

教育環境支援班では、主に福島県の相双地区(相馬市・南相馬市・新地町)の小中学校及び、高校へ週1～2回スクールカウンセラー(SC)が訪問し、カウンセリングや学習支援を実施しました。2023年時点では南相馬市で継続しています。福島県相馬市では被災した小中学校へ震災直後の5月より相馬フォロアチームとして訪問を開始しました。南相馬市では2012年より警戒区域である小高区の4つの小学校と1つの中学校へ、2014年以降は市内の全中学校も追加して訪問し、カウンセリングや学習支援を行っています。

また、養護教諭の専門性をさらに高め、養護教諭同士の連携・連帯を深めてもらうことを目的として勉強会を開催しました。具体的には、個別対応と研修会・事例検討会です。さらには、発達障がいやカウンセリング技法の研修会も行いました。養護教諭の方々の緊密なネットワークを形成することによって、地域の子どもたちの健全な育成を面で支える一助になればと考えています。

1) 相馬フォロアーチームとして実施したカウンセリング等の活動集計【2011.5～2015.3】

相馬市 新地町	カウンセリング			コンサルテーション	行動観察	情報交換	心理教育
	生徒	教員	保護者				
中村第二中学校	55	94	24	21	22	44	
磯部中学校	300	111	24	149	215	132	
磯部小学校	297	105	1	32	91	4	
日立木小学校	89	37	8	55	150	116	
玉野小学校	1	1	0	0	0	0	
山上小学校	3	5	4	11	53	47	
新地高校	5	2	1	4	0	4	
合 計	750	355	62	272	531	347	

2) 緊急カウンセラー等派遣事業として実施したカウンセリング等の活動集計【2012.4～2023.3】

南相馬市	カウンセリング			コンサルテーション	行動観察	情報交換	心理教育
	生徒	教員	保護者				
原町第一中学校	1,771	73	377	1,702	239	240	12
原町第二中学校	249	16	36	85	177	425	1
原町第三中学校	584	32	45	197	227	224	79
石神中学校	762	294	82	87	198	272	1
鹿島中学校	544	35	14	98	530	565	32
小高中学校	847	38	49	103	581	611	27
小高区4小、真野小	717	120	51	237	1,359	723	4
原町第一小学校	22	50	47	105	327	284	7
原町第二小学校	3	0	0	0	0	2	0
原町第三小学校	414	4	37	316	77	6	5
合 計	5,913	662	738	2,930	3,715	3,352	168

震災から12年が経ち、一次的なストレス反応はほとんど見られなくなっています。しかし、地域コミュニティの崩壊、家庭環境の変化等の現状を受け止めながら学校生活を過ごしているように感じられます。

保護者の中には生活の格差が生じており、生活が影響(一人親、外国籍、保護者の疾患(精神的)、複数回離婚再婚、生活保護等)している子どもたちにとっても、まだまだ先の見通しが立たない不安感と焦燥感があります。地域コミュニティの崩壊が及ぼす影響もみられ、不満の矛先は学校に向けられることもあります。子ども以上に環境に順応するためのストレスを抱えていてメンタルケアが必要な状態になっています。保護者のストレスは子どもの発達や感情を阻害する要因ともなるため、保護者のメンタルケアは子どもたちが健やかに成長していくうえで今後さらに必要となってきます。

また、発達障害を有する児童生徒に対する適正な対処が求められますが、対応が後手に回りやすく、十分な対応ができていない場面も見られます。教員は人間関係や保護者との関係、生活習慣の変化等でストレスを抱えている子どもたちに対し、さらには保護者に対しても専門的なアセスメントと支援・対応が必要となってきていることからより専門性を有した人の支援を必要としています。

➤ 2011 年～ サッカーを通じた被災地支援

FGC では東日本大震災以降、被災地の子どもたちとサッカーを通じて交流を深めるプログラムを毎年実施、1 月には相馬市でサッカースクールや「星槎奥寺カップ」を開催しています。2024 年は 1 月 14 日、小学校 3、4 年生の 9 チーム、約 100 名が参加し、大会を通して多くの交流が生まれました。前日の 13 日には指導者講習、午後は会場を移し、日本人初のプロサッカー選手である奥寺康彦さん、長年代表選手を含むサッカー選手の育成に携わられ、星槎のサッカー交流にもご協力いただいている大野真さん、そしていわき FC チームドクターの山本奈内子(ななこ)さんによる講演会も開催され、相馬でのサッカー交流の 12 年間の集大成ともいえる 2 日間となりました。



相馬市サッカー協会から感謝状と記念品の授与



優勝した相馬 FC のみなさん

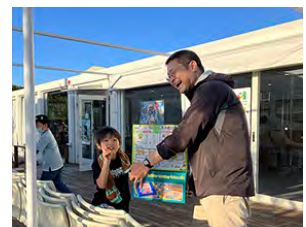
➤ 【これまでの主な支援活動】

【健康診断・相談会】 医療関係者のサポート	相馬市仮設住宅と相馬市八幡・山上・玉野地区の相談会を実施。高めの放射線量が計測されている玉野地区では、全住民を対象として実施。東京大学医科学研究所の上昌広特任教授(現:特定非営利活動法人医療ガバナンス研究所理事長)をはじめとした医師団と地元医師らが診察にあたる。
【放射線説明会】 講演者のサポート	2011年度は16回実施(2,412 名が出席)相馬市内で5月より東京大学医科学研究所の医師(坪倉正治氏など)を講師に迎え、各地区にて開催。6/6 日立木地区は、約250人が出席(住民に加え浜北聴覚障害者会の聴覚障害者8人が出席)。
【高校生のための学習支援】 講師陣のサポート	福島県立相馬高校への学習支援として、震災直後より代々木ゼミナールの藤井健志氏、東京大学経済学部松井彰彦教授及び松井ゼミの学生の方々が定期的に相馬を訪問。これをきっかけとし、代々木ゼミナールの安藤勝美氏・駿台予備学校の鳥光宏氏・犬塚壮志氏が相馬高校への学習支援を実施。
【こどものメンタルケア】 カウンセラーのサポート	相馬市内では津波被害を受けた小中学校・南相馬市小高地区(警戒区域)の小中学校へメンタルサポート及び生徒指導サポートを実施。
【奥寺康彦サッカー教室】 運営のサポート	星槎グループ奥寺スポーツアカデミー(OSA)校長・元サッカー日本代表・奥寺康彦氏のサッカー教室や指導者講習会を大磯・相馬市で実施。小中学生の神奈川遠征交流試合などのサッカーを通じた支援を行う。
【ヘドロや瓦礫の撤去・除去 に携わる作業員 及び住民の健康対策講演会】 講師のサポート	東日本大震災で発生した瓦礫から飛び散った粉塵による健康被害が懸念されていることを受け、2011年6月相馬市コミュニティセンターで講演会を開催。ヘドロや瓦礫の撤去にあたる作業員や流木切断作業員、被災地の行政区長など約120人が出席。
【相馬市復興会議顧問会議】 参加者のサポート	相馬市の復興計画策定に向け、有識者からの助言・指導を受ける。
【相馬市健康対策専門部会】 委員のサポート	東京電力福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質から、市民の健康を守る対策を協議する相馬市健康対策専門部会の委員として、東京大学大学院理学系研究科の早野龍五教授、同大学医科学研究所の上昌広特任教授、同研究所の坪倉正治医師の3名が加わる。幼児、小・中学生及び妊婦のガラスバッジによる積算線量の測定結果を踏まえた今後の対策などについて協議。
【被災地を訪れる支援者】 専門家・ボランティア等の支援	被災地を訪れる専門家・ボランティアへの宿泊等の支援。

【スペースウェザー協会】 放射線量計設置をサポート	福島県双葉郡浪江町との協同により、放射線量計(9台)を設置(浪江町の希望場所)。生活空間に近い場所での放射線量測定データをリアルタイムにインターネット上に配信。避難している住民の方々にも実情報を伝え、住民が今後の生活計画を立てるデータとして活用できるよう活動。
【ブータン留学生被災地訪問】 留学生・スタッフのサポート	ブータン王国にある大学、RTC(Royal Thimphu College)の学生らが2012年2月、相馬市役所を訪問、立谷市長から震災後の対応や復興状況等について説明を受ける。
【ピアノリサイタル開催】 ピアニストへのサポート	3月・10月の2回、パノス・カラン氏による東日本大震災復興支援ピアノリサイタルを開催。
【仮設住宅・健康マッサージ】 支援者へのサポート	神奈川県伊勢原市にある国際総合健康専門学校の学生13名と引率教員1名が仮設住宅の住民に対して、2週間、指圧・整体施術を342名に実施。
【リアルタイム線量計設置部会】 委員へのサポート	相馬市健康対策専門部会委員である東京大学早野龍五教授が発案した「リアルタイム線量計」の設置部会委員へのサポート。
【寺子屋事業】 学習ボランティアサポート	仮設住宅の小中学生を対象とした「寺子屋事業」は2012年6月から、東京大学の学生ボランティアによる学習支援活動。月2回程度、土・日曜日に相馬市内5カ所仮設住宅等の集会所で実施。(1 集会所あたり2人の講師)
【アスリートソサエティ被災地支援プロジェクト】 主催者へのサポート	2011年6月相馬市内に於いてトップアスリートによる陸上教室が開催された。アスリート選手団体「アスリートソサエティ」の被災地支援プロジェクト。教室に参加したアスリートは、長塚智広、横田真人、秋本真吾、菅野優太、寺田克也、細野史晃各選手7名。
【中学生・放射線講演会】 講師へのサポート	放射線の影響や身を守る方法の理解を深めるため、東京大学医科学研究所の坪倉正治氏を講師に相馬市内中学校へ放射線講演会を開催。身近にある放射線や内部被ばくと外部被曝の違いなど。食品への注意点を伝えた。
【北の大地に行こう】 企画のサポート	東日本大震災後の福島第一原子力発電所の事故により、屋外での活動が制限されている福島の子どもたち(小中学生が対象)を北海道芦別市と帯広市に招待して、思い切り野外活動ができる機会を提供する「北の大地に会いに行こう」プロジェクト。世界子ども財団と星槎グループ、芦別市、帯広市の共同事業で、2012年から毎年夏休みと冬休みを利用して実施。夏は星槎国際帯広、冬は星槎国際芦別本拠校が中心となり受け入れを行っており、夏は川遊びやパークゴルフなど十勝の大自然に触れる体験、冬はスキーや雪遊び、クリスマスケーキ作りなどを体験する1週間のプログラム。参加者からは毎回「外で思い切り遊べてうれしい」「友達がたくさんできて楽しい」などの感想が寄せられている。2018年12月までに芦別に285人、帯広に190人の小中学生を招待した。

2023 年 大熊町の子どもたちに遊具・おもちゃ等を寄贈

東日本大震災発生以降、被災地の子どもたちへの支援で中心的な役割を果たしてきた星槎グループの職員が「一般社団法人 Dream Forest Supporters」を設立、福島県大熊町の学童保育の運営を担い、活動を開始しました。世界子ども財団もこの活動に協力するために、学童の現場で不足している遊具やおもちゃなどの募集を開始、6月に第一弾を届けました。



日本国内 災害等への支援活動

世界子ども財団では、東日本大震災の復興支援だけでなく、各地で発生した緊急支援活動を行ってきました。

2024年1月1日に発生した能登半島地震に対しては、世界子ども財団を窓口として星槎グループ各法人・事業所の協力を得て寄附を募り、星槎国際高等学校富山学習センターの代表生徒とともに富山市長を訪問、復興支援のための寄付金として贈呈式を行いました。

【近年の緊急募金活動の例】

2016 年 4 月 熊本地震復興支援
2018 年 7 月 西日本豪雨復興支援
2018 年 9 月 北海道胆振東部地震復興支援
2019 年 10 月 台風 19 号被災地復興支援
2020 年 7 月 九州豪雨復興支援
2024 年 1 月 能登半島地震支援



能登半島緊急募金を
富山市長にお届けしました



SEISA Africa・Asia Bridge (SAAB)

～アフリカ・アジア・日本、現在と未来の懸け橋になる～

アフリカそしてアジアは世界中の中でも、最も変化の大きな地域として注目されています。アフリカは人類の起源の歴史があり、民族や文化の多様性がありながら共に暮らしています。そして、今では資源や経済的な発展が進み、多くの可能性を秘めた地域でもあります。また、この地域の人々の多様性は星槎の考える共生社会への大きなヒントがあると考えています。

星槎グループは、FGC でのエリトリア、ブータンやミャンマーなど、アジア・アフリカおよび太平洋諸国との繋がりをきっかけとして、その先の未来に向けて、こどもたちだけでなく、多くの人々に対し、これからの社会の在り方を真剣に考える機会として、2015 年より SEISA Africa・Asia Bridge(SAAB)を毎年開催しています。2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの方が来場する形での開催が難しくなりましたが、この状況を機に、オンラインですべてのプログラムを配信し、世界中どこにいても参加できるイベントとなりました。世界こども財団もこの SAAB に毎年参加し、プログラムの実施やブース運営、また大使館関係者とのコーディネート業務等を担当しています。

2024 年、記念すべき第10回となった SAAB は、引き続きオンラインでの配信とあわせたハイブリッド形式で開催されました。世界こども財団は活動の一環として進めてきた「ウガンダに橋をかけよう！プロジェクト」の成果発表を行い、また「チャリティードリンク」ブースを出展しました。



SAAB オープニングセレモニー



チャリティードリンクブース



プロジェクト成果発表



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

東京2020オリンピック大会、そして、パラリンピック大会が、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響から1年延期の後開催されました。

➤ 2021年 ブータン王国選手団 星槎箱根キャンパスにて事前キャンプを実施

2021年7月から8月にかけて、世界こども財団と星槎グループは、ブータン王国より選手を迎え星槎箱根キャンパスにて事前キャンプを実施しました。オリンピック アーチェリー選手1名、パラリンピック 陸上競技選手2名およびアーチェリー選手1名の計4選手が事前キャンプを行い大会出場しました。ホストタウンの神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町の皆様と連携して選手団を迎え入れ、オンラインを活用して地域の方との交流を実施し、応援メッセージを選手たちに届け、ブータン王国との友好を深めることもできました。ブータン王国からのパラリンピック出場は史上初のこととなり、同国において障がいを持つ人がスポーツを通して社会で活躍する道を見つけ、そのサポートができたことを大変嬉しく思います。



オリンピック

出場競技：アーチェリー女子個人、柔道男子60kg級、射撃女子10mエアライフル、競泳男子100m自由形 計4名

パラリンピック

出場競技：アーチェリー男子個人リカーブ、男子陸上砲丸F40、女子陸上砲丸F40 計4名

➤ 2021年 エリトリア国、ミャンマー連邦共和国選手団を訪問

新型コロナウイルスの影響により残念ながら事前キャンプに参加できなかったエリトリア国とミャンマー連邦共和国ですが、選手村で両国の選手団を訪問し、ホストタウンの皆様やこどもたちからの応援メッセージを届けることができました。

エリトリア、ミャンマーの選手たちも持てる力を最大限に発揮し、各競技に臨み、未来へつなげる可能性を残すことができました。



出場競技:

【エリトリア】男子マラソン3人、男子10000m、男子3000m障害、男子ロードレース2人、男子タイムトライアル
女子マラソン2人、女子10000m、女子5000m、女子ロードレース、競泳男子50m自由形 計13名
【ミャンマー】男子射撃エアピストル10m、バドミントン女子シングルス 計2名

公益財団法人 世界こども財団 公式ホームページ <http://www.fgc.or.jp/>

FGC メールマガジン(FGC メルマガ)配信登録はこちら →



Facebook / Instagram / X もご覧ください

FGC での日々取り組んでいる活動を発信しています。また、星槎のイベント情報や星槎で学んでいる留学生の日常にもスポットをあてて、随時更新していますので、ぜひ、フォローや「いいね」をお願いします。

Facebook



Instagram



X(旧 Twitter)





公益財団法人 **世界こども財団**

FGC—Foundation for Global Children